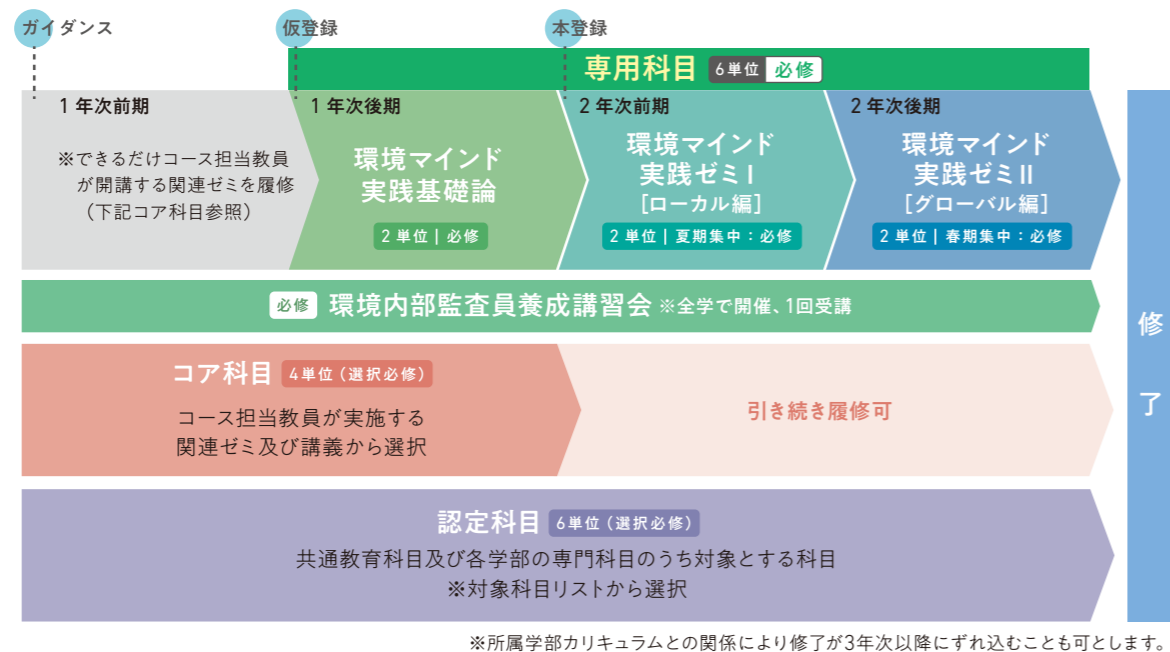


環境マインド実践人材養成コース カリキュラム

本コースは全部で16単位です。メインとなる専用科目(6単位:必修)、コア科目としてコース担当教員の講義・ゼミから4単位、認定科目として環境に関連する共通教育科目と各学部授業から6単位を選択必修とします。さらに学内で開催される「環境内部監査員養成講習会」を必ず受講します。コース修了者には履修証明書が交付されます。



Q 環境コースを受講するにはどうしたらいいですか？

1年次前期のうちは、ガイダンス(不定期)に参加したり、コア科目の講義やゼミの受講を検討してみましょう。環境コース受講には1年次後期の「環境マインド実践基礎論」がまず必修となり、履修時に環境コースに仮登録し、終了時に2年次の実践ゼミに進む場合は本登録します。

Q 環境コースは1~2年次で修了しないといけないのですか？

16単位を最短で2年次までに修了する構成となっていますが、所属学部のカリキュラムにあわせて修了が3年次以降にずれ込むことも可とします。ただし1年次後期の「環境マインド実践基礎論」はまず最初に受講して下さい。

Q 認定科目はどんなものがありますか？

認定科目リストは共通教育窓口で閲覧することができます。環境コース紹介HP (<http://www.shinshu-u.ac.jp/environment/works/course.html>) にも掲載しています。詳しくは問い合わせ窓口にご相談して下さい。

Q 費用はかかりますか？

環境マインド実践ゼミⅡ(グローバル編)では渡航費、宿泊費等で約15万円かかる見込みです。このほか実習等の参加費は自己負担です。計画的に準備しましょう。

Q 受講には学部・学科の制限はありますか？

希望者であればどなたでも受講できます。文系も理系も垣根なく、環境分野に関心のある方の受講を歓迎します。

Q 1年次後期からのみ参加可能ですか？

2019年度の1年生からが対象ですが、希望者は2年生以上でも受講可能です。

Q コア科目はどれを選んだらいいですか？

コース担当教員の専門により、「環境と国際」「自然環境保全」「環境マネジメント」などの内容テーマをそれぞれ扱っています。

環境コースの内容や履修方法について、詳しくは問い合わせ窓口にご相談して下さい。

信州大学環境マインド推進センター教育部門

お問い合わせ 共通教育窓口

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1 全学教育機構南校舎1階
TEL: 0263-37-2862 FAX: 0263-37-2868
Mail: ecomind@shinshu-u.ac.jp



2019年3月発行

環境問題に取り組みたい信大生へ

持続可能な社会づくりのための
実践力を養うコースが始まりました



環境マインド実践人材養成コース

Eco-Mind Program: Experience-Based Training for Environmental Competence



信州大学 全学横断特別教育プログラム

環境の切り口から 社会の課題解決の実践を考える

環境マインド実践人材養成コースの意義

環境に関する課題は、経済や社会とも密接に関わり、統合的な視点で考えていくことが求められています。
本コースは、2019年度スタートの新しいプログラムです。環境分野の幅広い課題の基礎知識を身につけ、特に国際社会の共通の目標であるSDGsや、持続可能な循環共生型の社会構築を意識して、課題解決の考え方を学びます。
学部に関係なく希望者が受講できるので、コース受講者同士の交流や協働も重視します。

目指す人物像

環境・経済・社会の統合的な視点を持つ

環境分野に関わる幅広い課題の基礎知識を持ち、経済や社会などと相互に関連・複雑化する現状に対して、持続可能性を重視した循環共生型の社会構築に向けた統合的な視点で課題解決に貢献できる人。

地域特性と地球規模の両方の考えを持つ

地域特性に応じた捉え方の重要性や日本という国の特色を良く理解した上で、地球規模の環境問題の観点でも、国際的な課題解決に必要な知識や考え方の基礎を持つ人。

多様な立場や価値観を理解し積極性・柔軟性を持つ

幅広い関係者との連携やパートナーシップを重視し、多様な立場や価値観を有する人々と前向きに課題を話し合い、合意形成による主体的な意思決定や人づくりに貢献できる積極性・柔軟性を備えている人。

SDGsの17のゴールの視点を学ぶ

いま、国際的に国、自治体、企業などあらゆる主体が取り組む国連の目標SDGsには、環境の要素も多く含まれています。本コースでは、このSDGsの17のゴール（目標）の内容、特色や実社会での取組状況を理解し、複数の課題の統合的な解決や、一つの行動で複数の利益を生み出すマルチベネフィットの視点を意識した学びをつくっていきます。



SDGsとは…
2015年の国連持続可能な開発サミットで採択された「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称。世界を変えるための2030年までの取組指針で、17のゴール(目標)について、環境・社会・経済の統合的アプローチが重視されている。

信大の特色を生かした個別テーマの活用

環境と国際

日本と世界の課題のつながりを重視

私たちは、今や自分たちの身体を支える物質的条件を国際的な関係に依存しています。それらのモノはいったいどこから来て、どこへ行くのでしょうか。問題の現場と机上を往復しながら、統合的な解決に向けた糸口を探ります。

自然環境保全

長野の自然を生かした内容

長野県には上高地など日本を代表する風景地を擁する国立公園や、ライチョウなど希少な動植物が息づく素晴らしい自然環境があります。その保全や管理・利用の取組と人や地域のかかわりを、生物多様性保全の視点から学びます。

環境マネジメント

信大での環境マインド養成の蓄積を生かす

信州大学では、環境マインドの育成として、環境に優しいエコキャンパスの構築に向けた取り組みを長年行ってきました。この蓄積された信大独自の経験を生かし、持続可能な社会づくりに必要な知識と思考力を身につけます。

専用科目の紹介

(全体カリキュラムは裏面を参照)

メインとなる専用科目(6単位:必修)は、1年次後期から2年次にかけて講義と集中ゼミを行います。実社会での環境分野の課題・取組内容を、企業や自治体などの実務者から直接学ぶ機会や実習・演習を含みます。

コース概要

【履修対象者】 2019年度以降入学の全学部の学生
【履修期間】 1年次後期~2年次後期
所属学部カリキュラムとの関係により修了が3年次以降にずれ込むことも可

【定員】 各年度25名程度
【認定要件】 全16単位
[専用科目6単位・コア科目4単位・認定科目6単位]
+環境内部監査員養成講習会受講

1年次後期 Step 1 ▶ 実務者から学ぶ！

環境マインド実践基礎論

2単位 | 必修
SDGsのテーマ理解、幅広い外部講師の協力、現場学習等
講義15コマ及び現場見学2回程度(土日)

実社会での「環境」分野の課題や取組内容について、企業や自治体、NPO団体などの様々な実務者から直接学ぶ機会を多く得られ、将来の実務的なイメージを考えるきっかけにもなります。

- 座学** ▶ 基礎知識の習得
- 外部講師のゲスト講義 現場見学等** ▶ 県庁/市町村/民間企業/NPO団体/国機関等
- 「環境」への関心の発表演習** ▶ 将来的に「環境」にどのように関わりたいか?
- SDGsの基本的な内容の理解
- 様々なゴール内容に応じた外部講師の講義や現場学習

環境マインド実践基礎論の内容

講義 | 15コマ

- ガイダンス
- 外部講師のゲスト講義

キーワード(例)

SDGsの総論|長野県の取組等
再生可能エネルギー|エネルギー地産地消
気候変動、パリ協定|脱炭素社会
廃棄物行政|プラスチックごみ、災害廃棄物
企業の環境施策|ライフスタイル、エンカル消費
大気・水・土壌環境|水環境と技術
自然環境の保全と活用|国立公園、希少種保全等
環境と経済|ESG投資

- EMS*関連(1~2回) 基礎知識、内部監査体験等(環境内部監査員養成講習会は別途受講)
- 演習・発表(3回程度) SDGsのテーマ理解に沿って、自分の「環境」への関心について発表
- まとめ SDGsを踏まえた次年度の養成実践ゼミへの展開

現場学習

- 現地見学 企業におけるSDGs |工場見学、環境配慮、CSR等
廃棄物処理施設 |処理現場、循環型社会構築

2年次前期 Step 2 ▶▶ 信州で学ぶ！

環境マインド実践ゼミI ローカル編

2単位 | 夏期集中: 必修
信州の素材で実施
事前学習(数回)及び県内現地学習3日間程度を予定

長野県内の環境のトピックを具体的に学ぶため、県内企業や自治体が実際に取り組む環境関連の取組や特色ある自然環境などから、実践的な課題演習や現地実習を行います。

- 事前学習** ▶ 「環境」に関わる仕事について外部にコンタクト・インタビュー
- 合同演習(合宿形式)** ▶ 外部インタビュー内容を持ち寄り発表、「環境」の様々な社会的テーマについてディスカッション
- 外部インタビューの中で、SDGsとの関連を踏まえて内容をまとめる
- SDGsのゴールとの対応を踏まえたテーマを設定し、現地学習、グループワークを行う

2年次後期 Step 3 ▶▶▶ グローバルで学ぶ！

環境マインド実践ゼミII グローバル編

2単位 | 春期集中: 必修
アジア圏などの素材で実施
事前学習(数回)及び海外現地学習10日間程度を予定

日本国内の環境の現状や課題は、国際社会での課題にもつながっています。海外での状況や日本とのつながりを学ぶことを重視し、現地での調査や実践演習に取り組みます。

- 事前学習** ▶ 社会調査の準備、アジア地域事情、EMS英語
- 海外実習** ▶ 参加型農山村調査、国際協力活動、EMS実習
- ローカル編の内容との関係や対比を考える内容やテーマを設定する
- SDGsの複数のゴールのつながりを理解し、統合的な解決に向けた糸口を探る

*EMS:Environmental Management System…環境マネジメントシステム